

佐伯文庫現存古書分類目錄

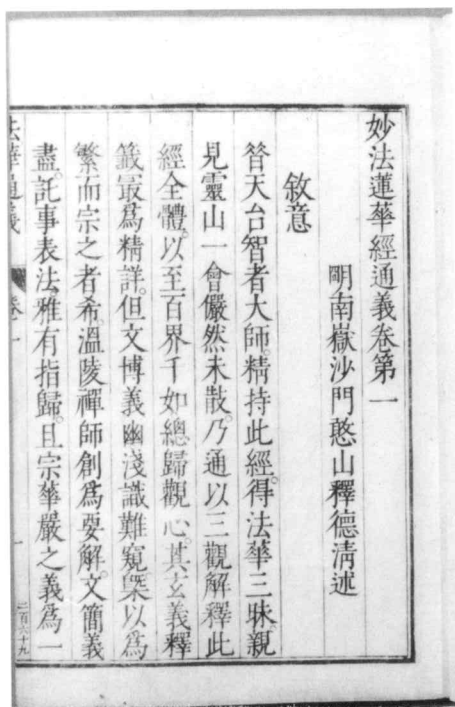
長澤規矩也
阿部隆一

共編

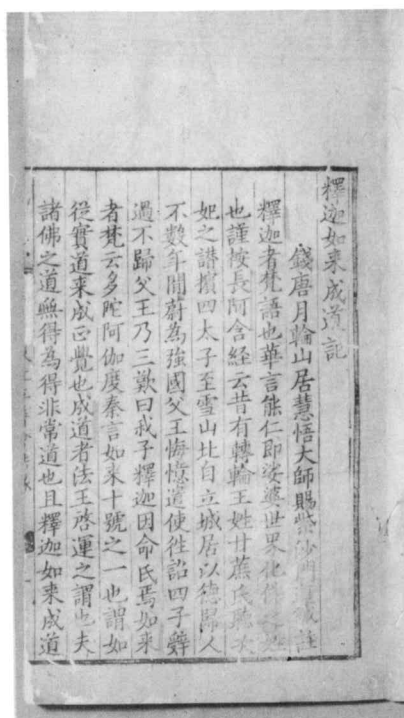
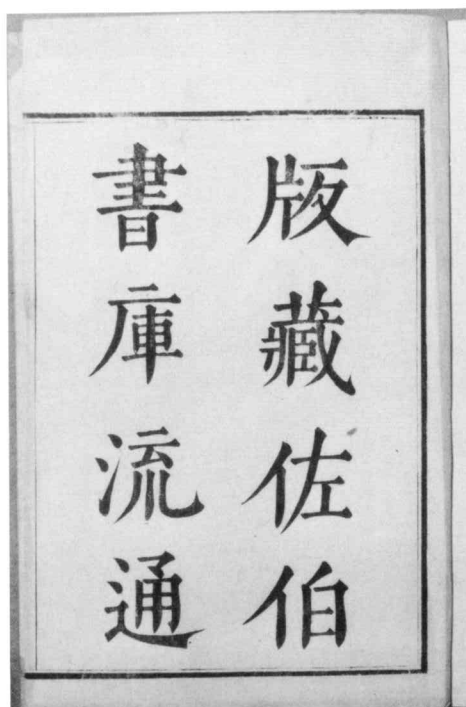
明治二十五年
三月廿五日
解部(明治廿五年)

古川 善次

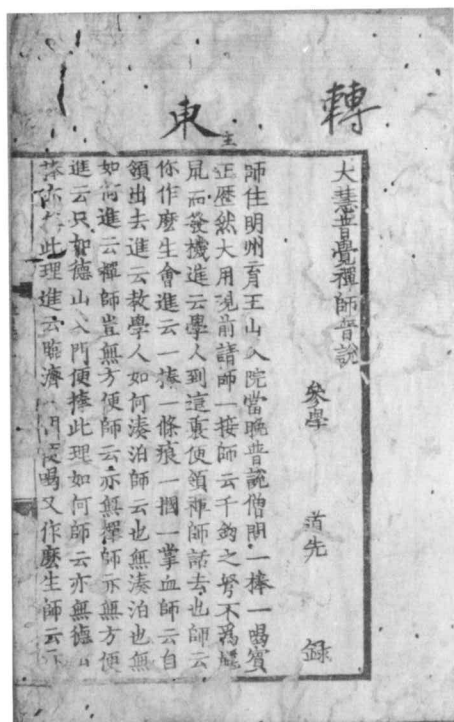
明治二十五年
三月廿五日
解部(明治廿五年)



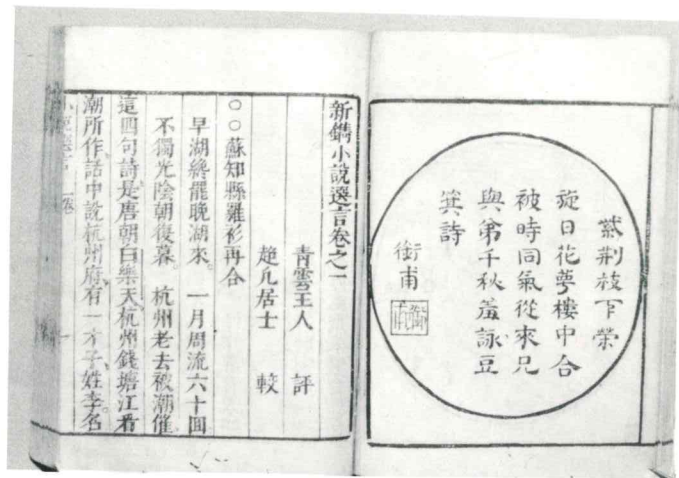
寬政二年刊（佐伯藩版） 妙法蓮華經通義



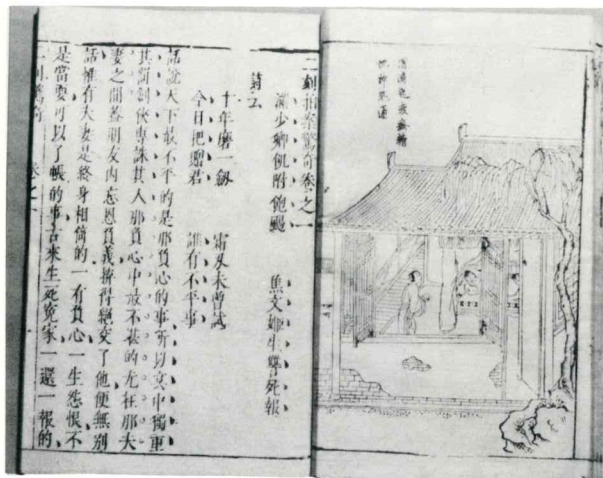
元大德十年跋刊 釈迦如來成道記増註



鎌倉末刊（五山版） 大慧普覺禪師晉說



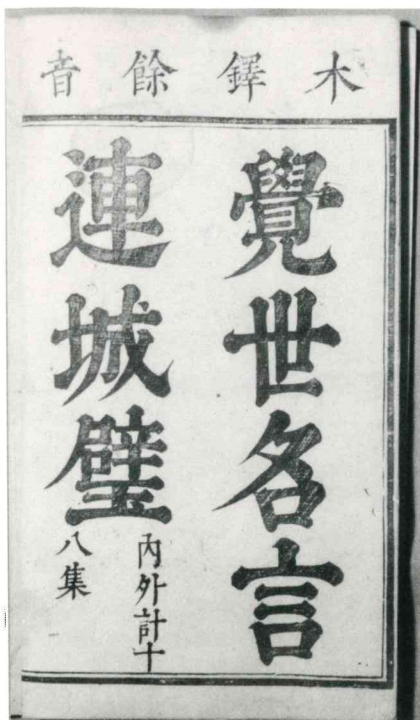
明末刊 小說選言



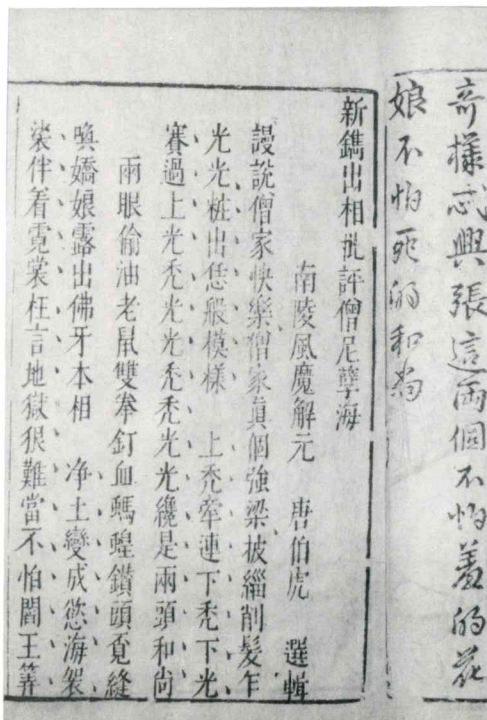
清初刊 二刻拍案驚奇



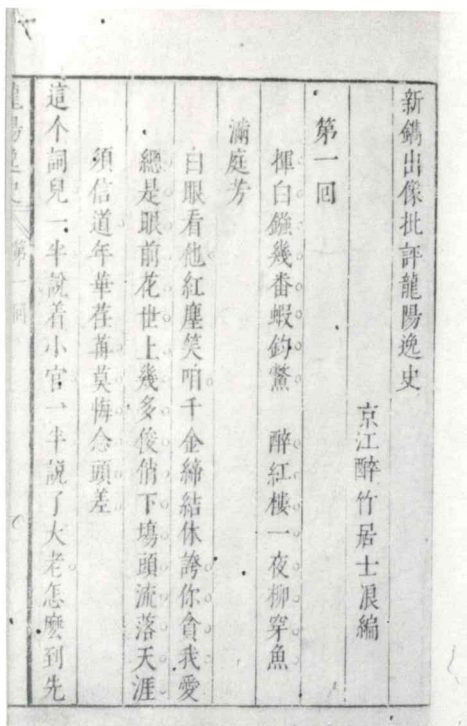
清初刊 幻緣奇遇小說



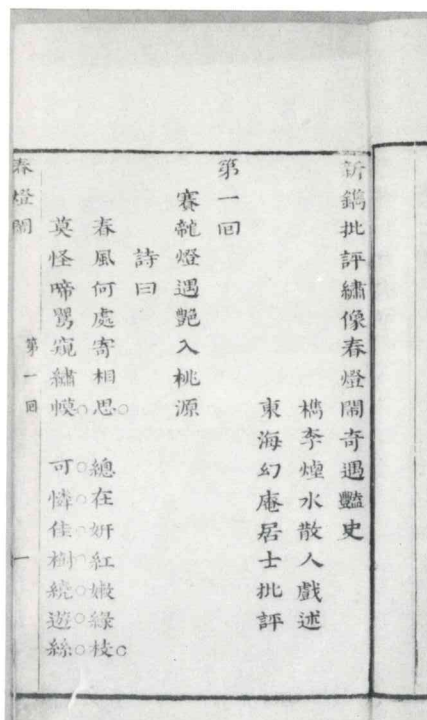
清康熙刊 連城壁



明天啓刊 僧尼孽海



明崇禎五年序刊 龍陽逸史



清康熙刊 春燈鬧奇遇豔史

佐伯文庫について

阿 部 隆 一

豊後佐伯藩主毛利高標の名は一般には知れ渡ってはいないが、漢籍に縁の深い東洋学の専門家の間には夙に著名である。それは現在宮内庁書陵部と内閣文庫に分蔵されている、毛利高標旧蔵の万巻の蔵書の恩沢に与ること多大なるものがあるからである。江戸時代の好学蒐書の大名としては、質量共に加賀百万石の前田松雲に次ぐものである。僅か二万石の小藩主にして、大大名も能くせぬ当時八万巻と称された大蒐書をなした毛利高標とはいかなる人で、その蔵書はいかなるものであったか。此については、別府大学講師梅木幸吉氏著「覚書・佐伯文庫」(昭和五十年刊、油印私家版)の労作がある。氏は戦前旧制佐伯中学の教諭を勤められた縁から、侯の顕彰を志して、多年の努力による調査をまとめられたものである。以下氏の著書調査を基礎として、少しく私見を補って佐伯文庫の概略を簡単に説明することにする。

毛利高標は第七代藩主高丘の三男として、宝暦五年(一七五五)江戸藩邸に誕生、宝暦十年父の逝去によって、六歳にして封を襲ぎ、第八代藩主となり、安永元年従五位下和泉守(後に伊勢守)に叙爵、翌年十八歳初めて佐伯に入国した。侯は資性寛厚、在位四十二年間治世に精励し、殖産興業と文教の振興に深く意を用い、治績大に挙げたが、享和元年(一八〇一)享年四十七歳を以て江戸藩邸に於て病歿した。侯の好学蒐書は特に有名で、侯が親交を結んだ鳥取若桜藩主池田定常(冠山)・江州仁正寺藩主市橋長昭と共に、当時学者三大名と喧伝された。侯は安永六年(一七七七)藩校四教堂を創立し、ついで天明元年(一七八一)佐伯の鶴屋城三之丸の一郭(現在の佐伯市文化会館のあたり)に、三棟の御書物倉を建て、書庫並に御書物奉行所となして、所蔵蔵書の全部をここに置いたわけではなく、一部は江戸の藩邸や御手許にあったものもあろう。

侯の歿後蔵書はそのまま襲蔵されたが、孫の第十代藩主高翰は幕府の要請に応じて、文政十一年(一八二八)その主要図書二万余冊を幕府に献納した。幕府はその大部分を幕府の紅葉山文庫に収納し、一部を昌平黉と江戸医学館に配分した。明治になって全て新政府に引き継がれ、現在宮内庁書陵部と内閣文庫に分蔵されている。藩の財政を傾けるまで苦勞して蒐めた蔵書を何故無償で幕府へ献納するに至ったかの理由については、(一)は幕府からの強請があった、(二)佐伯藩領内に藩預りの天領の飛地が散在したのが、と角紛争のもとになったので、本と引き換えにそれを藩領とすることを計ったという二説が伝えられている。事の真偽は明かでないが、どちらも真であったのであるまい。

か。しかし結果としては、佐伯藩への天領の返還は実現せず、幕府は佐伯藩に対して献書の儀まことに殊勝の至りの賞詞と共に時服並びに葵の紋章入りの馬鞍一具を賜ったにすぎない。この佐伯献書は藝林の一大佳話として当時の学界の耳目を聳動せしめると共に、佐伯に対する幕府の処遇は識者をして哑然たらしめ、世の同情はこの小藩に集った。しかしこの献書に対し、大坂の儒者篠崎小竹は後で述べる「佐伯献書総目」に跋して、

右豊後佐伯侯藏書、文政丁亥歲、献諸江府。府朝賜馬鞍一事、以報之云。侯臣中島増太示余以是書目。語其事、意似甚惜之。余曰、侯家豈保累世產好讀書之人。其或不_レ好、必有_二蠹蝕散乱之患_一矣。今藏官庫、則監護職具、檢目借覽亦猶_二外府_一。乃侯之献而不_レ藏、非_三所以深藏之乎_一。（以下略）己丑四月小竹散人識

と、図書の永久保管と利用の点で、大局から見ても、献じて蔵せざるは、深く之を蔵する所以でないと論じた。事の結果は小竹の言の如くになった。献納せず佐伯に残った本は維新後殆どが散出亡失して、僅かに今回調査編纂せるこの書目に見る如き、全体から見れば零残を遺すのみとなったからである。現在我々が毛利高標旧蔵本として珍重し、その学恩を永遠に受けるのは、幕府から書陵部・内閣文庫へと受け継がれた献書によるからである。

佐伯藩が幕府へ献じた二万余冊は高標の全蔵書ではなかった。その蔵書目には現在ほぼ二種類の書目が伝っている。(一)は「毛利家蔵書目」（紅栗斎蔵書目）、(二)は「佐伯献書目」である。(一)は高標が蒐集せる漢籍のほぼ全体の分類目録で、書名、巻冊数、撰者名、刊写年等が録されている。紅栗斎とは高標の書斎名である。梅木氏は広瀬淡窓の「懷旧樓筆記」巻十二「垂帷誦業」の中から、佐伯四教堂教授松下筑陰（名は夷、日田で講説当時淡窓はその門に学び、寛政六年佐伯に招かれてから淡窓も佐伯に従遊）が公用で長崎に行った帰路の文政三年の秋日田の淡窓宅に一宿し、その時に、筑陰が先頃国命により出府し、公命によって編纂せる唐本の目録を奉った旨を語った談話の記事を紹介して、本目録が幕府の内命によって、松下筑陰等の儒官が編したことを明かにされた。文政初年には幕府が佐伯の蔵書に注目して、その献納を内々考えていたことがわかる。この書目は内閣文庫に田安家旧蔵の写本二部、書陵部・静嘉堂文庫等に写本が架蔵され、別に内閣文庫には函別の「佐伯書目」一冊の写本がある。この書目によって侯の蒐蔵の全容をほぼ推測することができる。梅木氏はこの紅栗斎蔵書目著録の書を

総計二千七百十二部 七萬七千一百十二卷 三萬三千五百五十八冊
と計算された。

(一)の「佐伯献書目」写本は、天理図書館・内閣文庫(三部)・書陵部・国立国会図書館・静嘉堂文庫・慶応義塾大学斯道文庫その他に蔵され、殆どが巻末に上に引用の文政十二年の篠崎小竹の跋が附され、書名冊数を録し、所々版種等の注記が附さる。印記等についての朱筆の注記が間々あるが、此は後人の書入と思われる。天理図書館本は小竹の手筆本と伝える。大分県立図書館蔵の一冊は佐伯藩の儒官書物奉行明石大助(秋室)の手写本で、小竹附跋本に比し、書名のみで冊数の著録なく、朱筆書入注も、巻末の総計数もない。梅木氏は本書目の編纂者を山田平之丞氏の説を引き、文政三年來書物奉行であった明石大助(秋室)とする。また後述の「御蔵書目録」にはこの「献上書目」に「明石大助書」の注記がある。しかし本目録の内容を見るに、例えば「史記三部」の次に「此三部萬曆板汲古本ニ無之異板ニ候ハ、可被差出候」また「此本国板ト異掎ニ候ハ、差出候事」等の様に随所に献納を受ける幕府側からの要求が注記されているから、佐伯側が編纂したものとは考えられない。献書の選択は佐伯ではなく幕府が行ったので、その為に豫めその全蔵書目の編纂を命じたものであろう。幕府は文政初佐伯から献ぜられた(一)の書目によって、幕府所蔵本と照合して、その重複を除き、善本を選んで、献納を命じたりリストが本書目であったと看做すのが妥当である。所々「正目」の略称で(一)の書目からの引録が注されている。佐伯の豊富なる蔵書を閲覧したい為に佐伯藩士の養子となることを承諾したと伝えられる明石秋室がその編纂に尽力したのは、この献書目ではなく、その前のより詳細な(一)の毛利家蔵書目(紅葉斎蔵書目録)の方で、松下筑陰は四教堂祭酒として編纂を主宰したろうが、実際は秋室が担当したと想像される。勿論献納當時の書物奉行の職にあった大助が献書目録を書写したであろうが、それは実際は幕府の献書要望書目を形式的に整えたにすぎないと思われる。本書目の巻末には、その総数が

総計千六百五十三部 二万百十一本 医書総計九十部 六百四十七本 共千七百四十三部 二万七百五十八本
と記されている。献書数を(一)の紅葉斎蔵書目の総計二千七百十二部三万三千五百五十八冊と比較すると、差引約九百六十九部一万二千八百冊が佐伯に残ったことになる。

現存本から見ると、幕府への献書には全て「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大方形朱印が鈐され、佐伯に残った本には「佐伯文庫」の矩形印が捺されている。献書には「佐伯文庫」の印のあるものは一つもなく、佐伯の現存本には「佐伯云々」の印の鈐されたものの二部を見出したが、此は間違つて捺されたか、或は献納が中止されたかであらう。従つて侯生存中は特別の蔵印を捺すことも、「佐伯文庫」の名称もなかったと思われる。この献書は既述の如く明治後最後に内閣文庫に引き継がれ、後にその中から宋元版の如き最も稀覯なる善本の一部が図書寮に移管されて現在に至ったのである。梅木氏は「内閣文庫漢籍目録」と宮内庁書陵部の「和漢圖書分類目録」の両書目

に著録されている毛利家旧蔵本と注記されている図書を丹念に検索して分類別・版種別の詳細な現存本一覧表を作製された。それによれば内閣文庫蔵毛利旧蔵本は

千三百四十六部 一万二千二百二十二冊

内訳 元版十二部 明版六百九十七部 清版五百十四部 朝鮮版四十部 和版七十七部 その他六部
宮内庁書陵部蔵は

八十四部 四千九百九十九部

内訳 宋版七部 元版十二部 明版四十四部 清版十三部 朝鮮版七部 和版一部

部数に比して冊数の多いのは道蔵一部四千百十五冊が含まれているからである。

総計千四百三十部 一万七千二百一十一冊

現存本を献書目の部冊数に比すれば、三百十三部三千六百三十七冊が不足し、所在不明となっている。此は明治初の混乱期に一部が流出し、現在坊間に時に「毛利云々」の蔵印の鈐された旧蔵本を見ることがある。もっとも部数は見方によって多少の数の相違は免れず、冊数もその後の改装によって変動が生ずるから、以上の数は嚴格に正確と言い得ぬにせよ、実数に近いと言うべきであろう。最も浩瀚な明刊道蔵経は、献書目では四千四百二帖と録されているが、現存本は四千百十五帖で、一百八十七帖が逸失している。しかし幕府時代の四十年と明治政府への引き継ぎから明治廿二年内閣文庫に落ち着くまで所轄官庁が次々と変転した混乱期の事情を斟酌すれば約一割七分強の散失は已むを得ぬと考えねばなるまい。

一方幕府に献納されなかった一万二千八百冊は佐伯の書庫に「佐伯文庫」の蔵印をおして、保管されたようである。しかし明治維新から廃藩置県に伴った行政の朝令暮改の混乱につれて、佐伯文庫と藩校四教堂の蔵本も、全国の全ての藩の例にもれず、流出散亡の悲運を免れなかった。或るものは大分県へ提出を命ぜられた。そのうち高標旧蔵の洋書五部（この洋書は侯の学風考察上極めて注目すべき資料であるが、ここではその解説を割愛する。梅木氏著参照。）は大分県立図書館に現存する。同館には通典・三礼考註・大明律・文苑英華・皇朝類苑・太平御覧・冊府元龜・南巡盛典の八部が収蔵されていたが、不幸先の戦災にかかった。しかし大多數の図書は所管主体の曖昧さから、民間に流出四散し、中には無惨にも襖の下張や故紙にされたようである。かかる明治前期の変転が一応落ち着いてから、流出を免れた佐伯文庫残存図書は藩主のお手許本や藩政記録文書・書画骨董類と共に旧藩主毛利家の所有として、魚市場の倉庫に、ついで三の丸の城門の樓

上と旧藩邸の池彦の倉庫に、最近まで一切他見を禁じて收藏されて来た。

本目録の編纂者の長沢規矩也先生は戦前はるる佐伯を訪れ、閲覧を懇請したが、管理人の故片岡翁は許さず、ただ蔵書目録のみを示され、先生はそれを手写された。その目録は「明治三十二年九月調、御蔵書画幅目録、毛利家」の書画・手鑑・墨蹟等の目録と、「御書籍目録附法帖、御蔵書目録」と題する長持の函別による書名と帙・冊数を記した目録である。此は佐伯文庫残存本と明治までの毛利家お手許内むき本とで、漢籍のみならず、和書から明治前期の活版本も含んでいる。この函別目録は増村隆也氏の「佐伯文庫の行方」（「大分県地方史」第六号収）に全載されている。長沢先生の写された片岡翁の目録には著録本中に所々欠冊や東京の毛利邸へ送附等の注が記されている。東京転送本は今次の戦災で焼失したようである。その中には献書総目・献上書目・御蔵書目の如き原本と思われる書が含まれている。この目録が明治後の唯一の毛利家蔵書目であったが、昭和四十年二月、佐伯市の郷土史家羽柴弘氏が池彦の倉庫の收藏本を現物に当って目録をとられた。書名・帙冊数のその書目は梅木氏の著書に転載されている。総計百三十三部二千七百八十七冊である。此は全て佐伯文庫蔵印のある本で、明治三十三年の御蔵書目録中のお手許本と思われる本は含まれていない。

以上の経過を辿った佐伯文庫・四教堂・毛利家本は昭和五十年に毛利家から、藩政史料の記録文書と共に、佐伯市に寄贈されることとなったのである。此よりさき、佐伯市は佐伯文庫・四教堂旧蔵本の回収に努め、佐伯の明治の学者中島時軒が蔵した佐伯文庫・四教堂旧蔵本を中島家から譲渡を受けていた。今ここに編纂せる「佐伯文庫現存古書分類目録」は高標蒐蔵の佐伯文庫本を中心に、四教堂旧蔵本と毛利家お手許本の漢籍（準漢籍を含む）を附した書目である。本目録著録本の中から佐伯文庫本と目し得る残存本を数えれば、約一百四十三部四千六百六十五冊となる。此を献書後の佐伯文庫の九百六十九部一万二千八百冊に比すると、大約部数で一割五分弱、冊数で三割六分弱が残っているにすぎない。

高標侯一代の蒐書約二千七百部三万三千五百冊の漢籍には、漢籍中の至宝とされる宋元槧本が現存本で見ても三十有余部を数え、旧鈔本・旧刊本あり、漢籍のコレクションとしては質量共に世界有数の文庫と称すべく、明刊本の富有なる点では他に比類が少ない。侯の蒐書の特色は、一に偏せず、漢籍は四部に亘って凡ゆる部門を悉く備え収めようとした点にある。上は聖賢の書たる経書に始って、下は俗書淫書の類にも及んでいる。書としてあらざるものなきを目標としたらしく、我が国に未伝来と思われる本の購入には特に意を用いたようである。現在書陵部に架される明正統刊万曆増修道蔵経は、仏教の一切経大蔵経に該当する道教の一大叢書で、三洞四輔十二類、五百十二函、五千四百八十五巻と云われる膨大なるもので、我が国には従来伝わっていなかった。この道蔵の所蔵は現在中国でも極めて稀れで、しかも

完本は何処にもなく、毛利本の現存四千百十五帖は一ヶ所の所蔵冊数としては最大である。当時誰も眼をつけなかったかかの大叢書を購得したことは驚嘆に価する。侯の蒐書は国内に伝承された古書の入手のみならず、その多くは新渡の唐本にあった。長崎を唯一の入口とする僅かな清国からの舶載本のみに頼らざるを得ない鎖国時代の制限貿易の事情を考える時、かかる多方面にわたる蒐書のいかに困難で並々ならぬ辛劳を要したかは想像に余りある。しかも侯は当時定評のあった卓抜な鑑識力によって、同じ本でもより精善なる版種を選ぶことに意をこらしたことは、担当の家臣に与えた書簡にも窺い得る。収蔵本は、侯が奨励した佐伯特産のひきの強い厚手楮紙の疊紙の紙帙で包み、嚴重に保管された。侯のこの幅広い蒐書によって今では漢土にも伝存稀れとなった多種多様な部門の漢籍が我が国に網羅されるに至り今後永遠に東洋学に垂れる学恩はまことに量り知れぬものがある。古今和漢を通じて宋元版の如き貴観書のみを蒐集を数えれば侯は他に一籌を輸するであろう。しかし銷国の事情を斟酌すれば、多彩の点では正に白眉と称しても過褒ではあるまい。

今ここに整理著録せる佐伯文庫現存本は、幕府が善本を選択した残りの、さらにその一割五分にすぎぬ残存であるから、内閣文庫・書陵部蔵の献書類に比すれば、その価値の見劣りすることは言うまでもない。しかし古川に水絶えずの喩えの如く、僅か百五十部足らずの食余とはいえ、その明・清刊本はやや俗書に属するが、それだけ今では却って容易に入手できる本ではない。江戸時代の儒者が関心を示さなかった伝書は、献書そのものには選ばれたものが僅かであったので、比較的佐伯に多く残ったようである。ここに見る伝書は率ね稀本で、その尤なるものは元大徳刊「釈迦如来成道記増註」であろう。元槧本としても、またこの元の普会増注本そのものも明以後の刊本を聞かず、永く伝を絶った天壤間の孤本と思われる。鎌倉末刊五山版の「大慧普覚禪師普説」も鼠害が惜しい。

この残存本中で他に比類のない存在は俗小説類である。此は言わば挿絵入り大衆小説で、江戸時代の草双紙の如きものである。当時この類は和漢ともに士君子の手にすべからざるもので、図書とは認められず、昔も今も読み捨てにされたから、後世に伝存したものは極めて少ない。勿論文学・芸術上の価値は乏しいが、近時庶民の社会風俗関係資料として貴重視されている。侯の多方面の蒐書はかかる類も捨てなかつたのである。献書の中にはこの俗小説類も含まれているが、ここに残された小説は殆どが淫書である理由からか、「紅葉斎蔵書目（毛利家蔵書目）」にも著録が省かれ、献上を免れたものであろう。その多くは他に伝本が知られぬ貴重なる資料である。ただ清咸豊刊と思われる「金石縁全伝」は年代上侯歿後に入つたものである。

藩校四教堂蔵本と佐伯文庫との関係であるが、四教堂の蔵印のある本には佐伯文庫の印がなく、佐伯文庫蔵印の本には四教堂の印がないから、両文庫は別々のものであつたと思われる。佐伯文庫はあくまで高橋一代の蒐蔵本を中心とする藩主のお手許本で、その中から四教

堂に廻された本も勿論あったと思われ、或は儒官の利用は許されたであろうが、事実佐伯文庫本は学校図書館蔵本としては高度専門すぎ、元来両者各々その性格を異にする。四教堂蔵本は、他の多くの藩校と同様に和刻本でありふれた唐本で構成された学習図書館であったと想像される。

献上本・佐伯文庫本・四教堂本は上記の如く多く流出したから、焼失亡逸本も多々あるにせよ、現に内外諸文庫に架蔵されている本もあり、佐伯市所有となった本目録著録本の外に、根気よく探せばまだまだ今後出現する可能性が多い。佐伯文庫が佐伯市によって再興された機会に、その回収に努力されんことを期待してやまない。

昭和五十一年初、文化庁美術工藝課の山本信吉氏と用談のついで、どうしたわけか記憶していないが、談偶々佐伯文庫に移り、私はかねがね佐伯残存本調査を希望している旨をつげた所、山本氏が毛利家から佐伯市に図書文書一切が寄附され、市教育委員会が文化庁にその整理と目録編纂費の補助を申請しているからと、一覽を勧められ、私も丁度九州出張のついでがあったので、渡りに舟と喜び、山本氏は大分県文化課の後藤正二氏に早速連絡され、話は思いもがけずに進展した。戦前長沢規矩也先生が佐伯に出かけながら、閲覧を果さず空しく帰えられたことを知っていたので、先生をお誘いした所、非常に喜ばれた。私は二月末に出発先ず福岡で調査をすませ、三月初大分市に行き後藤氏等の接待を受け、県立図書館蔵本を閲覧し、臼杵市図書館によってから、佐伯を訪れた。佐伯市教育委員会の加藤健一氏の案内で、佐伯市文化会館に保管されている佐伯文庫本を始めとする文書記録及び毛利家寄贈本一切を先ず一覽して、藩政資料の記録文書を除いて、図書類の整理の計画を加藤氏と立てた。間もなく長沢先生が到着され、また「覚書・佐伯文庫」の著者梅本幸一氏も別府から参加され、私も滞在予定を延ばし、この際一気に佐伯文庫目録を作りあげることになった。長沢先生の例の叱咤勉励の下に佐伯文庫旧蔵本のための目録を一応作り上げた所で、私はさらに山口市に訪書の予定があったので、一足先に佐伯を立ったが、長沢先生はさらに滞在を延ばされて、公民館に保管してあった中島時軒旧蔵の佐伯文庫・四教堂本や毛利家お手許本中の漢籍の目録をとられ、私共の下書に補訂を加えて目録を編纂清書して油印に附する手配を整えて帰京された。かくて「佐伯文庫現存古書目録」(稿本)が加藤氏の努力で謄写ファックスで少数数印行された。ついで今五十四年三月再び佐伯を訪れ、前回の油印の稿本に対し、再調査の上補訂を加え、やや解説を増補したのが本目録である。佐伯文庫・四教堂本並にお手許本の漢籍は本目録に収録したが、毛利家寄贈本にはこの外に国書の江戸刊本や明治前期の活版本並に洋書がある。此等は殆どがありふれた本であるから、その目録は他日を期することにした。

佐伯滞在中は甚だ快的に調査に没頭して、短期間に本目録の編纂をなし得たのは毛利高標侯の学徳のしからしめること言うまでもない

が、佐伯市教育長安部亀雄氏、教育委員会職員加藤健一氏、同囑託山本保氏、大分県教育委員会文化課後藤正二氏等の並々ならぬ熱誠のもった御援助のたまものであることを最後に記して、感謝の意を捧げる。

昭和五十四年卯月吉日

凡 例

一、本目録は、佐伯旧藩主毛利家より佐伯市に寄贈された、佐伯文庫蔵本（殆ど毛利高標の蒐集）に、毛利家蔵本（高標以後の毛利家御手許本）及び佐伯市蔵中島時軒旧蔵本（佐伯文庫・四教堂旧蔵本）中の漢籍古書を附せる、漢籍（含準漢籍）分類目録である。

一、蔵印等から佐伯文庫本と目される以外の本については、御手許本は△手▽、明治卅二年編と思われる「御書籍目録」著録本は△手（目）▽、佐伯文庫・四教堂本のうち中島時軒の旧蔵になった本は△中▽△四・中▽と注記した。蔵印等から推定される名家旧蔵本は△某旧蔵▽と記して、それぞれその伝来を示した。

一、分類は四部の分類によったが、ただ集部の末に「戯曲小説類」、四部の末に「叢書部」の部門を新に附した。

一、書名は本文巻頭題を採り、それを欠く場合は、外題封面等に拠り、書名の下にその拠所を小字で注記し、また内題書名と外題その他とがかなり異なる場合は（ ）内に注記した。原本の書題・撰者名・刊年等の不備については「 」等の括弧を加えて補った。

一、書名の字形は、支障のない限り、現行活字体を用いた。

一、刊年下の（ ）内は刊地刊者名等である。

一、下段の小字は形状冊数並に函架番号である。佐伯文庫本の多くは今も特有の当時の紙帙に包まれ、二包以上のものは幾包と注記した。

一、他に伝来稀れな稀覯本と佐伯関係本については簡潔な解説を附した。

佐伯文庫現存古書分類目錄

附毛利家御文庫並
四教堂旧藏漢籍

經部

易類

周易伝義大全

二四卷・上下篇義・易五贊・筮儀・易說綱領・周易朱子図説（元政上人旧蔵）
明胡広等奉勅編 鶴飼信之（石齋）点 慶安五刊（京・村上平楽寺）

（重刻解元会魁紫溪蘇先生心伝）周易児説

（封面・易経児説）四卷
明蘇濬撰 清蘇堯松等校 清康熙二六序刊

日講易経解義

一八卷首一卷
清傅臘等奉勅編 清康熙刊（殿版）

書類

書経彙解

（尚書彙解）四六卷
明秦繼宗撰 楊鶴校 明万曆四二序刊

（鐫彙附百名公帷中綮論）書経講義会編

一二卷
明申時行撰 李鴻等校 明万曆四三序刊（楊春榮）

（深柳堂彙輯）書経大全正解

（尚書正解）一二卷附深柳堂禹貢增刪集註正解読本・書経正解図
清吳奎編 清康熙二九序刊（吳・孝友堂・贈言堂）

詩類

詩経〔集伝〕

（頭書本）八卷
宋朱熹撰（松永） 昌易標注 寛政三刊（今村八兵衛、後印、大、河内屋太助）
△手（目）▽

判冊 函号

大三包二經一

大唐八〃二

大唐三〃三

大唐一〇〃四

大唐八〃五

半唐三〃六

大和八〃二〇

礼類

(新刊) 礼記哀言

存八卷(卷一—八)
明葉維祺等編 明万曆一三序刊

△多福文庫旧蔵▽△中▽

大唐 五 〃 七

礼記約述 序首

二四卷又四卷
明陳有元撰 陳鳳翥校 明崇禎元序刊(朱墨套印)

大唐 六 〃 八

版心ニ卷次ヲ朱印ス。篇ノ順序ハ、曲礼ノ次ニ直チニ王制・月令・文王世子・礼運・礼器・郊特性・玉藻・大伝・少儀・学記・楽記・祭法……トシ、檀弓・内則ハ又卷ノ中ニ収ム。伝本稀。

礼記説義纂訂

二四卷
清楊梧撰 楊楠編 楊呂齡等校 清康熙一四序刊

△中▽

半唐 二〇 〃 九

春秋類

春秋左伝

三〇卷
晋杜預集解 那波師曾(魯堂)點 寛政二二刊(後印、秋田屋太右衛門)

大和 一五 〃 三

(重訂批點)春秋左伝詳節句解

三五卷
宋朱申撰 明孫鉉批 顧梧芳校 余天長訂 明崇禎一一序刊(尊古堂)

大唐 二〇 〃 二〇

春秋直解

(九經解零本) 一五卷
明郝敬撰 郝千秋校 [明末]刊

半唐 三 〃 二

孝經類

孝經

(版心・古文孝經)
嘉永三刊(薩摩府学)

△手(目)▽

大特和 一 〃 三

孝經大義

宋朱〔熹〕刊誤 元董鼎注 寛文一〇刊(後印、大、敦賀屋松村九兵衛)

△手(目)▽

大和 一 〃 三

孝 經〔集解〕

全一八卷
清趙起蛟撰 趙飛鵬・趙鳴謙校 清康熙三二跋刊（趙氏家塾）

大唐 三 〃 三

五 經 類

詩 經 版 心

（附旁訓本）（校正訓點五經零本）二卷 版心
□□□刊

△手（目）V

中和 二 〃 二四

（後藤點）五 經

（改正音訓本）周易 版心作易經二卷 尚書 版心作書經二卷 詩經 版心作四卷（春秋缺）礼記 版心作四卷
後藤世鈞（芝山）點 後藤師周・後藤師劭校 天保一〇刊（四刻、大、山内五郎兵衛、弘化三修）
△手（目）V

大和 二〇 〃 二五

四 書 類

論 語 〔集解〕

存四卷（卷五十八）
魏何晏（室町後期）写

半和 二 〃 二三

「紅粟齋藏書目」ニ「論語集解 十卷 魏何晏 写本」、明治三十二年調ノ「御藏書画幅目録」ニ「論語集解函入五冊」トアルモノ。今回雜本ノ一括ノ中ヨリ発見。「佐伯文庫」印ナケレド、第一冊ニ印記アリシカ。栗皮表紙（二四×一七・二糎）。外題ニ「論語集解 三（四）」ト。烏糸欄ハ單辺（一八・八×一三糎）有界八行、行廿字、注小字双行。上層ヲ設ケ、ソノ幅三・三糎。朱点朱引墨訓点ヲ附シ、上層行間ニ邢昺正義ソノ他ノ注ノ書入少シクアリ。博士家系ノ点本ニ非ズ。

正改 四 書 集 註 見 返

（再刻後藤點本）存大学（章句）中庸（章句）各一卷 論語〔集註〕一〇卷（卷一・二）
（缺）（孟子全缺）
宋朱熹撰 後藤世鈞（芝山）點 後藤師周・後藤師劭校 □□□刊

△手（目）V

大和 五 〃 二六

（新鐫孩如鄭先生觀靜窩）四書知新日録

大学一卷 中庸一卷 版心作三卷 論語二〇卷 版心作上下各一〇卷 孟子八卷
明鄭維嶽撰 鄭藻其等校 明万曆二四刊（溫陵、聚奎室）
△中V

長半唐 六 〃 二四

日講四書解義

(墨書加點本) 二六卷
清沈奎等奉勅編 清康熙刊

同

二六卷
清沈奎等奉勅編 清康熙刊

二部異版。共二殿版ノ翻刻ナルベシ。前者ノ刻稍前ニアルカ。

小学類

六書

故

三三卷六書通釈一卷
元戴侗撰 明張萱訂 張元炳等校 明万曆三十六刊(懸塵齋)

卷九・十・十五末ニ刊記アリ、卷三三ノ四二葉以下缺。

同文備考

八卷首三卷附韻要粗釈全四卷声韻會通一卷
明王忞電 明嘉靖三十六跋刊(後印)

字彙

存七集(子・卯・辰・未・酉・戌・亥)(有缺)
明梅鼎祚撰 梅膺祚音釈 [慶安三]刊

篆字彙

一二集
清佟世男編 胡正宗・方正琇校 清康熙三〇序刊(多山堂)

康熙字典

一二集附總目・檢字・辨似・備考・補遺・等韻
清凌紹雯等奉勅編 清刊

三字經

見返

宋王忞麟 文化一四刊(江、万笈堂英平吉)

△中▽

半唐 三〇 包二 〃 一五

△廣川吳氏旧蔵▽

大唐 八 包二 〃 七

△四▽

大唐 二〇 〃 八
大和 七 〃 七

△中▽

中唐 三 〃 九
四〇 入函 四 〃 六

△手(目)▽

半和 一 〃 元

史部

正史類

史記評林 一三〇卷補史記一卷首一冊(有破) 明凌稚隆編 李光緒補(補)唐司馬貞 寛文一二・一三刊(京、八尾甚四郎友春) ^{△手(目)▽} 大和三 史五

同 一三〇卷補史記一卷首一冊(卷二八―四三、五八―七〇缺) 明凌稚隆編 李光緒補(補)司馬貞 天明六刊(寛政四修、大、松村九兵衛等) 大和二 〃 二六

漢書評林 一〇〇卷首一冊 明凌稚隆編 釈玄朴点 明曆四跋刊(京、林和泉掾) ^{△元政上人旧蔵▽} 大和三 〃 一

後漢書 宋(元大德九年寧国路刊本)九〇卷補志三〇卷 宋范曄撰 唐李賢注 元張奭・王鰲更校(志)晋司馬彪 梁劉昭注 (江戸前期)刊 ^{△元政上人旧蔵▽} 大和 〃 二

同 同 ^{△元政上人旧蔵▽} 大和 〃 三

「佐伯侯毛利高標字培松蔵書画之印」ノ朱大方印アリ。丹表紙。

編年類

資治通鑑 二九四卷 宋司馬光等奉勅編 元胡三省注 明陳仁錫評 (明末)刊(呉門、大観堂) 大和二 〇 包十 〃 四

初印本ナレド、李孫宸ノ序ヲ缺キ、且附刻ナシ。次ハ同版次印。

同 二九四卷 目錄三〇卷通鑑釈文辨誤一二卷宋元通鑑一五七卷甲子会紀五卷(外紀缺) 大和一 五 包七十 〃 五

統資治通通 六四卷 明王宗沐 (明隆慶)刊(後印) 大和三 〃 六

史部

正史類

史記

評林

一三〇卷補史記一卷首一冊(有破)
明凌稚隆編 李光縉補(補)唐司馬貞

寛文二・一三刊(京、八尾甚四郎友春)

△手(目)▽

大和三五

史三五

同

一三〇卷補史記一卷首一冊(卷二八―四三、五八―七〇缺)
明凌稚隆編 李光縉補(補)司馬貞 天明六刊(寛政四修、大、松村九兵衛等)

大和三〇

〃二六

漢書

評林

一〇〇卷首一冊
明凌稚隆編 积玄朴点

明曆四跋刊(京、林和泉掾)

△元政上人旧藏▽

大和三五

〃一

後漢書

(元)大德九年寧国路刊本 九〇卷補志三〇卷
宋范曄撰 唐李賢注 元張輿・王鰲叟校(志)晋司馬彪 梁劉昭注

(江戶前期)刊

大和六〇

〃二

同

同

△元政上人旧藏▽

大和三〇

〃三

「佐伯侯毛利高標字培松藏書画之印」ノ朱大方印アリ。丹表紙。

編年類

資治通鑑

鑑

二九四卷
宋司馬光等奉勅編

元胡三省注 明陳仁錫評

(明末)刊(吳門、大觀堂)

初印本ナレド、李孫宸ノ序ヲ缺キ、且附刻ナシ。次ハ同版次印。

同

二九四卷 目錄三〇卷通鑑釈文辨誤一二卷宋元通鑑一五七卷甲子会紀五卷(外紀缺)

大唐一五
包七十

〃五

統資治通

六四卷
明王宗沐

(明隆慶)刊(後印)

大唐三
包三
〃六

資治通鑑綱目

五九卷序目一冊前編二五卷首一卷統資治通鑑綱目二七卷（資治通鑑綱目五代統編卷末一卷缺）
宋朱〔熹〕撰 明陳仁錫評（前）明南軒評（統）明商輅等奉勅編 三宅可參校 寬文一 一跋刊

大和 一〇六
〃
〃 七

綱鑑精采

二〇卷
明葉向高編 坂田文平校 明治二一刊（大、文海書屋松村九兵衛）
△手（目）V

中和 二〇
〃
〃 七

（鼎鍬趙田了凡袁先生編纂古本）歷史大方綱鑑補

（歷史綱鑑補）三九卷首一卷
明袁黃撰 鶴飼信之（石齋）點 寬文三刊（後印、大、河内屋太助）

大和 二〇
包三
〃 八

通鑑擊要

前編二卷正編一九卷統編八卷通鑑擊要附錄一卷明史擊要八卷
清姚培謙・張景星編 增田貢（岳陽）點 明治九刊（東、別所平七）
△手（目）V

中和 一五
〃
〃 六

雜史

貞觀政要

一〇卷
唐吳兢撰 元戈直集論 山本惟孝等校 文政六刊（南紀學習館藏版、和歌山帶屋伊兵衛等後印）
△四・中V

大和 二〇
〃
〃 元

史鈔類

史書

一〇卷
明姚允明編 明崇禎一〇序刊

△璜川吳氏旧藏V△中V

大唐 二〇
〃
〃 九

史緯

三三〇卷
清陳允錫編 清康熙三三序刊

大唐 二〇
包五十
〃
〃 二〇

伝記類

朱子行狀

朝鮮李滉編 朝鮮明刊

△元政上人旧藏V△中V

大特鮮 一
〃
〃 二

(宋朱晦菴先生) 名臣言行錄

前集一〇卷後集一四卷補遺正誤一卷
宋朱熹撰李衡校明張采評宋學顯馬嘉植參正鵠飼真泰
(稱齊) 點寬文七刊(後印) 大河内屋茂兵衛

△手(目) V

大和 六 //

(新刊) 皇明名臣言行錄

四卷

(卷一・二) 明楊廉編(三・四) 明徐咸編 明嘉靖二〇序刊(後印)

大唐 四 //

廉吏伝

全一四卷廉吏伝附一卷
明黃汝亨 明万曆四三序刊

大唐 六 //

明儒学案

六二卷(卷二五—三〇缺) 首一卷
清黃宗羲 清刊(紫筠齋)

△中 V

大唐 一五 //

史評類

史

懷

一七卷(卷十七末破損)
明鍾惺撰陶珪評李国木等校

(明末) 刊(擁万堂)

大唐 六 //

地理類

○ 総 志

王会新編

全一四五卷(有缺)
清茹鉉撰傅良弼等校 清康熙三二序刊

大唐 三 包四 //

每卷大題ノミニテ、卷次ヲ記サズ。全卷数確認セズ。暫ク内閣目ニヨル。現存九七卷カ。

○ 山 水

廬山紀事

一二卷(一・二卷)
明桑喬 清康熙五九序刊(蔣氏忠雅堂)

大唐 四 //

○ 雜 記

帝京景物略

二卷(序目・卷尾欠)
明劉侗・于奕正撰王永積・耿章光校

(明崇禎) 刊

半唐 六 //

「大清万年一統天下全圖」八幅（箱入）ハ破損甚ダシク、修理ニ勝ヘザルニヨリ廃棄トス。

政書類

文獻通考

三四八卷 序目一冊
宋馬端臨〔明末〕刊

大唐 一〇
包三十
〃
九

十行二十字、小字雙行、白口、單辺、有界、斷句。

資治新書

（封面・新增資治新書全集）初集一四卷 首一卷 二集二〇卷
清李漁撰 沈心友校〔清〕刊（帶月樓）

大唐 一〇
包二
〃
〇

大清律集解附例

（封面・大清律輯註）三〇卷（卷一八前半欠） 函全二卷
清沈之奇撰 洪弘緒增 清乾隆一刊

大唐 一七
包二
〃
三

万国公法

序目見返

四卷
美・惠頓撰 丁韋良等訳 慶応元刊（開成所蔵版、元治元印、江、^{△手（目）}老皂館万屋兵

大和 六
〃
三

詔令奏議類

右編補

一〇卷
明姚文蔚編 劉仲等校〔明末〕刊

大唐 四
〃
三

歷代名臣奏議

三五〇卷（卷三二〇以下欠） 序目三卷
明楊士奇等奉勅編 張溥刪正 明崇禎八序刊

大唐 一〇
〃
三

「天師明經儒」「船橋蔵書」「清原」「弘／賢」ノ旧蔵印記アリ。明經博士船橋家旧蔵。

目録類

淳化秘閣法帖考正

一二卷(附録・附正共) 清王澐撰 汪玉球參正 清刊(許鼎齋)

大唐 四 〃 二四

卷末ニ「宛陵劉茂生鐫」トアリ。仿宋刊本。

子部

儒家類

讀

荀

子

四卷 (荻生雙松(徂徠)撰 字(佐美) 惠(澤水) 訂 寶曆一四刊(京、葛西市郎兵衛、明和二印) 〓四・中〓

大和 四 子 一

小

学

〔句〕〔讀〕

(新刻改正本) 六卷 明陳選撰 後藤世鈞(芝山)點 文化七刊(大、山内五良兵衛・京、北村四良兵衛) 〓手(目)〓

大和 四 〃 三

小

学

纂 註

二卷 清彭定求 清康熙二〇刊(南响艸堂)

〓中〓

大唐 二 〃 二

臣

鑒

録

二〇卷 清蔣伊 清刊

大唐 一〇 〃 三

兵家類

武經七書彙解

七卷首一卷尾一卷 清朱墉撰 朱圻訂 朱元英等校 清康熙二七序刊

半唐 九 〃 四

(註釈評点)古今名将伝

一七卷附一卷 明陳元素 明天啓三序刊

大唐 一七 〃 五

遠西奇器図説録最

三卷

明西洋鄧玉函口授 王徵訳画 汪応魁訂

清写

農家類

泰西水法

全四卷(不全)
明西洋熊三拔撰

徐光啓訳 李之藻訂

写

同

五卷首一冊
同写

医家類

金匱玉函要略方論輯義

六卷

丹波元簡

文化九刊

天文算法類

渾蓋通憲図説

二卷首一卷
明李之藻撰

鄭懷魁校

明万曆三五序跋刊

九行十八字、白口、雙辺、有界、断句。匡郭内、縦七寸二分半、横四寸五分半。印記ナシ。

圖容較義

明西洋利瑪竇撰

李之藻演 明万曆四二序刊

十行二十二字。印記ナシ。万曆甲寅李之藻「圖容較義序」。

天問略

明西洋陽瑪諾

写

測量法義

明西洋利瑪竇撰

徐光啓筆受 (明末)刊

十行二十二字。序跋ナシ・印記ナシ。

大唐

五

〃

六

大和

一

〃

七

半和

六

〃

三

△手(目)▽

大和

一〇

〃

八

大唐

四

〃

九

大唐

一

〃

一〇

大和

一

〃

四

△手(目)▽

大唐

一部以上三

〃

二

幾何原本

六卷首一卷
明西洋利瑪竇撰 徐光啓筆受 (明末) 刊

大唐 八 三

十行二十二字。「刻幾何原本序」(徐光啓)「訳幾何原本引」(万曆丁未、利瑪竇)。印記ナシ。

藝術類

江邨銷夏錄

三卷
清高士奇 清康熙三二序刊

大唐 四 三

和刻本ノ底本ト同版。

燕閑四適

二〇卷(序欠)
明孫丕顯王基校 (明) 刊

大唐 八 一四

十行二十字、白口、單辺、有界。

印

史

五卷
明何通 明天啓三序刊並鈐

大唐 六 一五

雜家類

(重刻) 西学凡

(欽一堂刊本)一卷附景教流行中国碑頌
明西洋艾儒略答述(景)大秦釈景浄 写

大和 一 一六

九行十九字、断句。「西学凡序」(天啓丙寅、何喬遠)、「刻西学凡序」(同、楊庭筠)、「西学凡引」(許胥臣)。印記ナシ。
以上ノ例ニヨリ、御禁書ニハ文庫印ヲ捺サズ、マタ「紅栗斎藏書目」ニ著録サレザリシガ如シ。

古今原始

一五卷
明趙鈞撰 清黃晟補 清乾隆二八刊(槐蔭草堂)(卷十五ハ黃補)

中唐 八 一七

五 雜

組 ○

一六卷
明謝肇淛
〔明〕刊

長半唐
八
包二
〃
八

知 新

録 ○

三二卷
清王棠撰 黃晟校 清刊（燕在閣）

大唐
二〇
包二
〃
九

朱

翼 ○

一二卷版心
明江旭奇編 江応貢訂 明崇禎元序刊

△中▽

大唐
一八
〃
〇

英 国

志 ○

八卷（卷一—三欠）
英・托馬斯米爾納撰 莫維廉訳 文久元刊（長門、温知社）

△手（目）▽

半和
四
〃
五

諸 子 彙

函 ○

二六卷序目一冊
明婦有光編 文震孟訂 明天啓五序刊

大唐
一六
包三
〃
二

小説家類

法 喜 志

四卷統四卷
明夏樹芳編 明末刊（江陰 夏氏清遠樓）

大唐
四
〃
三

佐伯文庫印ハ続ニアリ。正編ハ漢ヨリ元、続編ハ南北朝ヨリ元ニ至ル諸家ノ略伝逸話ヲ人別ニ収ム。中ニ貫酸齋ノ伝アリ。単辺白口、七行十六字。「濤喜志題辭」（吳亮）、「名公法喜志叙」（鄒迪光）、「濤喜志叙」（万曆丙午、顧憲成）、「濤喜志自叙」、「続刻濤喜志題辭」（夏樹芳）、「続法喜志跋」（釈株宏）アリ。初見。

山 中 一 夕 話

（開卷一笑改題本）上七卷下七卷
明李贄編 明刊（清修、梅墅石渠閣）

大唐
六
〃
三

類 書 類

続 文 献 通 考

二五四卷
明王圻編 明万曆四一序刊（松江府）

大唐
一〇〇
包十
〃
二四

潛確居類書
一二〇卷
明陳仁錫編
明刊

大唐
五
入箱
〃
二五

博物彙編
一九卷
明黃道周編
明崇禎八刊（後印）

大唐
六
〃
二六

淵鑑類函
四五〇卷目四卷
清徐乘義等奉勅編
清刊（清吟堂、後印）

大唐
一〇
七原
包十
〃
二七

佩文韻府

半唐 二〇〇 “ 元

第十一函ニ、元治元年暮秋、紙帙ヲ作ルトアリ。今、一部紙帙破損。

積家類

楞伽阿跋多羅寶經〔集註〕
四卷
宋釈上受
〔明嘉靖〕刊

大唐
四
〃
二九

（大仏頂如来密因脩証了義諸菩薩万行）首楞嚴經（会解）

〔序首・大仏頂首楞嚴經会解〕一〇卷
元积惟則〔明〕刊〔覆元至正二年平江師子林刊本〕

大唐
五
〃
三〇

茶褐色表紙（一八・八×二一・六糎）。裏打加ヘラル。首ニ至正二年師子林沙門惟則ノ「大仏頂首楞嚴經会解叙」ノ自序臨川沙門克立ノ募梓跋並ニ会解所引教禪諸師名目ヲ冠シ、卷末ニ惟則ノ「勸持叙」及ビ克立再題ノ刊語跋附セラル。四周双辺（一八・八×二一・六糎）、無界、十一行二十一字、注文低一格。句点附刻。版心小黒口单黒魚尾「会解卷幾（丁付）」。

下象鼻ニ義捐僧俗名ヲ刻スル葉少シクアリ。

本書ハ姑蘇城師子林ノ天如惟則ガ諸家ノ要解ヲ會輯シテ補注ヲ加ヘ、禪門ノ要関タル首楞嚴經ノ義ヲ說ヲ理會セシメントシ、元ノ至正二年著成リ、臨川ノ克立ガ募縁ノ由來ヲ跋シテ至正四年折帖本ヲ以テ刊行ス。後ニ學人ノ帶同ニ便ナラシメントシテ、吳郡ノ張子明等ノ首唱ニヨリ同十二年平江ノ師子林ニ於テ冊子本ガ重刊サレ、爾來ソレニ基ク明刊本ガ流布セララル。我ガ国ニ於テモ、夙ニ南北朝時代ノ康曆二年臨川寺刊ノ五山版（覆元至正十二年刊本）アリ。マタ寛永二十年刊和刻本通行ス。

本版ハ、台灣ノ国立中央図書館蔵元至正十二年刊明嘉靖六年印本、同蔵明万曆三十年通修印本、神宮文庫蔵卷九・十零本

等ノ平江姑蘇師子林原刻本ノ照片ト比較スルニソノ覆刻ノ關係ニアリ。照片ノミノ比較ヲ以テ全般ノ断定ハ下シ難イガ、全
 休ノ雕法ヨリ察スルモ、コノ本ハ至正十二年ノ師子林ノ原刻本ニ非ズシテ、恐ラク明前期ノ覆刻版ナルベシ。

(大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行)首楞嚴經〔講録〕

(題簽・楞嚴經講録)一〇卷
 明釈乘皆撰 汪益源校梓 明天啓二序跋刊

大唐 五 〃 三

(大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行)首楞嚴經如説

(題簽・楞嚴經説) (版心・楞嚴經如説)

存五卷(卷一・四・五・九・一〇)
 明鍾惺參輯 賀中易標定 明天啓四序刊(弘覺山房海廓)

大唐 四 〃 三

楞 嚴 略 疏

一〇卷
 明釈元賢述 明崇禎一二刊(釈道映・普知)

大唐 三 〃 三

摩訶般若波羅蜜多心經

(序首・無垢子解註心經)
 〔姚秦釈鳩摩羅什〕訳〔宋張九成注〕(無垢子) 〔明嘉靖〕刊 〔野間三竹旧蔵〕

半唐 一 〃 四

金剛般若波羅蜜經

(目・十七家解註金剛經)四卷
 〔姚秦釈鳩摩羅什〕訳宋楊圭・潘舜龍編 楊宗元校 〔明嘉靖末〕刊(戚繼光)

大唐 四 〃 三

同

(十七家解註金剛經)(帶図本)四卷
 〔姚秦釈鳩摩羅什〕訳 宋楊圭・潘舜龍編 楊宗元校 明万曆元刊(三山南台后浦復初庵)

大唐 四 〃 三

金 剛 經 集 註

明彭憲敏(無靜居士) 明崇禎一一序刊

大唐 一 〃 三

同

同

後者ニハ印ナケレド、同版二部一包ナレバ、首冊ニ印ヲ捺ス習慣ナルニヨリ、捺印ナキナリ。

(敬修堂合纂)金剛經約註

(下段金剛般若波羅蜜經)
 清陳宗泗 清雍正四序刊

大唐 一 〃 三

般若二經三訂約註序首

般若波羅蜜多心經三訂約註附翻訳弁疑直説・金剛般若波羅蜜經三訂約註附説金剛般若波羅蜜經標語
 明翁汝進 明崇禎二序刊

大唐 一 〃 四〇

妙法蓮華經大窠

(序首・法華大窠)七卷
明釈通潤箋 (明万曆)刊

大唐 八

// 四

妙法蓮華經通義

(題簽・法華通義)七卷(覆明万曆刊本)
明釈徳清 寛政二刊(佐伯藩蔵版、京、葛西市郎兵衛等印)

大唐 七

// 四

淡茶色布目表紙(二六・八×一七・八厘)。題簽「法華通義 幾」。封面「明南嶽愁山釈徳清述／法華通義／皇都書林(中中央ニ)文錦堂／芸香堂／博厚堂／水玉堂」。首ニ「寛政元年己酉春王正月／天台後学沙門六如釈慈周謹撰」ノ「刻法華經通義序」及ビ扉絵アリ。卷ニヲ除ク各卷末ニ底本ノ万曆丙辰冬月望日丹陽広福寺住持通添ノ募刻助縁原識語、奥付前ニ「版蔵佐伯／書庫流通」ノ半葉附ケラル。

本文卷首「妙法蓮華經通義卷第一／明南嶽沙門愁山釈徳清述」(卷二以下第二行「姚秦三蔵法師鳩摩羅什奉 詔訳」、第三行卷一ノ次行ニ同ジ)ト題ス。四周双辺(二〇・五×一四・二厘)有界九行、行十八字、注低一格大字单行。句点附刻。版心白口单黒魚尾「法華通義 卷幾 (丁付) (字数・刻工名)」。奥附ニ「寛政二年庚戌孟夏穀旦／皇都(中中央ニ)／

林伊兵衛／梶川七郎兵衛／武村嘉兵衛／葛西市郎兵衛」ト。卷首ノ釈慈周序ニ「佐伯侯毛利霞山公、篤好文学、家多鄰架之寛、適獲此書於海舶、因翻刻以嘉惠後学、乃不我鄙夷、命序其由、公嚮刻閱蔵知津、広布世間、今復成斯盛事」トアル如ク、本版ハ侯ガ明万曆四十四年丹陽広福寺刊本ヲ版心ノ刻工名字数ヤ原助縁募刻刊語ヲモノマ、覆刻セシメタル佐伯藩版ニシテ、侯ノ捨淨財開版ノ佛書ニハ、他ニ明釈智旭編「閱蔵知津」首目共四八卷天明二年刊廿冊(覆清康熙刊本)ガアル。

○ 史 伝

釈迦如来成道記(増註)

三卷
唐王勃撰 宋釈道誠注 元釈普会増註 元大徳一〇跋刊

大唐 六

// 四

後補濃茶色表紙(二六・八×一五・三厘)。一部虫損修補加ヘラル。首ニ、北宋景祐元年仲春既望序ノ朝奉郎守尚書屯田郎中分司南京柱国崔育材述ノ「釈迦如来成道記註序」ヲ冠シ、卷末ニ「時大徳十年丙午歲三月望日序」ノ錢唐沙門普会撰ノ「釈迦如来成道記増註後序」ヲ附ス。本文卷首「釋迦如来成道記」(格三)錢唐月輪山居慧悟大師賜紫沙門道誠註、卷中・下ハ「釋迦如来成道記増註卷中(下)」ノ(格五)賜紫慧悟大師 道誠 註ノ(格五)錢唐沙門 普会 増註ト題シ、尾題「釋迦如来成道記増註卷上(一下)」ト。左右双辺(二八・四×一二厘)、有界十行、行二十一字、注低一格、普会注ヲ「増註」ト墨田陰刻ノ標記ヲ以テ区別シ、音注等ハ小字双行。版心白口双黒魚尾「成道記上(一下)」(丁付)。稀ニ上象鼻ニ「成道記」ノ書名、中縫ニ僧俗助縁者名ヲ刻スル葉ヲ交ヘ、後序首葉ノ下象鼻ニ「何通刊」ノ刻工名アリ。各裏葉左欄外中央ニ耳

格アリ、「某地某助刊」ト助縁者名刻セラル。

成道記ハ初唐ノ有名ナル詩人王勃釈尊ノ八相成道ヲ簡明ニ叙シテ、入滅後ノ遺法ト弘通ニ及ビ、像末ニ生レ金口ニ直接シ得ザル悲哀ヲ述ブ。道誠ノ成道記註二卷ハ諸経ヲ引イテ逐字解注ヲ下シ、勃ノ盛名ニ因ミテ広ク流通シテ我が国ニモ及ビ、寛文六年・宝暦五年・安永五年等ノ和刻本アレド、コノ普会ノ増註本ハ從來殆ド知ラル、コトナシ。本書ノ成立ト刊刻ノ経緯ニツイテハ、普会自ラソノ後序ニ叙シテ曰ク、

自唐至宋三百餘載而有錢唐沙門賜紫慧悟大師道誠引経伝釈之貼我後人俾覽者泮然無滯其利博哉普会后慧悟又三百餘載嘗觀是書惜其義未詳欲事増広未暇也南新香積普熏沙門聞悟大德癸卯坐夏寿泉聞而悅之朝夕討論積數十紙明年春留藥而帰又明年普会輒加研究挾其善者存之闕者補之繁者刪之訛者正之其所未逮者復為據撫所聞頗成倫叙与其秘玩孰若広伝啓于識者果衆從之釀金繡梓遂厥志也

ト。字様南宋ノ遺風ヲ帯ビ、刻工ノ何通ノ名ハ、南宋ノ国子監ニ蔵サレシ板本ノ元代西湖書院ニ移サレ、大徳頃補刻ヲ加ヘラレシ、南宋前期刊越刊八行本周礼疏、史記集解、兩淮江東輻運司刊三史、眉山七史等ノ元補刻ノ刻工名中ニ見ユルヲ以テ、本版ハ大徳年間ノ江浙ノ刊刻タルコト疑ナシ。筆者ハ寡聞ニシテ他ニ本版ノ所在ヲ聞カズ。コノ本ニハ室町末近世初間ノ書入少シク存シ、所々朱点朱引、朱圈点加ヘラレ、包紙ニ「天明三卯正月ノ御寄附」ノ墨書アリ。

居士伝

五六卷附二林居唱和詩・体仁要術
清彭際清 清乾隆四〇刊（長洲、彭氏）

大唐 三 〇四

楞嚴碑記

序首 清釈白法編 清順治刊

大唐 一 〇四

〇

禪宗永嘉集

一卷附永嘉証道歌
唐釈玄覺（明末）刊

大唐 一 〇四

福州玄沙宗一禪師語録

（題簽・玄沙大師語録）
唐釈師備撰 明林弘衍編 明天啓六序刊

大唐 一 〇四

同

同

大唐 一 〇四

後者ニ印ナキコト、三七号ノ場合ト同ジ。

大慧普覺禪師普說

四卷附大慧普覺禪師法語一卷
宋寂宗果(卷二) 宋寂慧然等編 釈祖慶校
北朝初間刊

釈祖慶校

(卷二一四) 釈道先編

〔鎌倉末南

半和 八

〃 咒

茶褐色表紙(二三・八×一六・五厘)。首ニ淳熙十五年祖慶ノ序、紹熙元年祖慶ノ跋ヲ冠シ、本文卷首「大慧普覺禪師

普說」(格九)參學 慧然 蘊聞 録(格九)小師 祖慶(格三)校勘(卷二以下次行「參學 道先 録」)ト題シ、卷末

ニ「大慧普覺禪師法語」一卷ヲ附ス。四周単辺(二七・五×一・一厘)無界十一行、行廿字。版心白口双黒魚尾「普說一

(卷二一四) (丁付)」。各卷首ノ上欄ニ「転東ノ漸ノ庵ノ公ノ物ノ今ノ為ノ大ノ淵ノ寺ノ常ノ住」ノ墨記横書アリ。各卷

末左ノ所蔵識語ヲ有ス。

(卷一) 転丹波国長安寺之塔頭ノ東漸庵公用今為ノ大淵禪寺常住ノ皆応永^三十^年 竜集乙巳九月十六日

(卷二) 転丹波国長安寺東漸庵常住ノ今為ノ大淵禪寺公用ノ皆応永^三十^年 竜集乙巳九月十六日

(卷三) 転丹波国長安寺ノ之塔頭ノ東漸庵公用今為ノ大淵禪寺常住ノ衆香口七宝山住持鬼首

(卷四) 転東漸庵公物ノ丹波国長安寺今為播州英保ノ大淵禪寺常住ノ皆応永^三十^年 竜集乙巳九月十六日
所々朱句点、僅ニ墨筆書入ガ見ラル。本版ハ鎌倉後期刊ノ五山版ニシテ、現在伝本甚ダ稀觀、完本ニ大東急記念文庫・東洋
文庫(補刻アリ)・日光天海蔵ノ蔵本、卷二ノ零本ガ天理図書館(積翠軒旧蔵)ニ架セラル、ニスギズ。コノ本ハ不幸風害
ニヨル汚損甚シ。

古禪師寓言録

題簽 二卷(卷一・博山重鐫古和尚雪峯西禪廻龍答問偈言、卷二・博山重鐫古和尚応酬
雜書) 明釈元來撰 釈成嶠編 (明末)刊

大唐 一 〃 〃

(博山和尚)回源録

二卷 明釈元來撰 釈正紀編 (明末)刊(鉛山、陳啓兆)

大唐 一 〃 〃

黄檗無念大師復問統復問雜記

目首 復問統欠 明釈深有撰 劉広磐校 明天啓四刊(古杭、雲棲寺)

大唐 二 〃 〃

同 (存雜紀) (首尾有欠葉)

大唐 一 〃 〃

○ 文 藝

樂 邦 文 類

六卷新增附録一卷
宋釈宗曉編 (明末)刊(雲棲寺)

半唐 六 〃 〃

空谷集

三〇卷
明景隆撰 积文盛等編 明正統一二刊（後修）

永覺和尚禪餘

內集八卷外集八卷
明积元賢撰 积太冲編 明崇禎一六序刊

○ 雜著

長夜論

明积大善 明万曆四〇序刊

（景祐）天竺字源

（高山寺本）七卷（卷七原欠）
宋积惟淨等編 写

○

天主夷義

二卷
明西洋利瑪竇 明万曆三一序刊

道家類

莊子因

（独見附標本）六卷（卷四欠）
清林雲銘撰 秦鼎補義（寛政九）刊（後印、大、積玉圃柳原喜兵衛等）
△四・中▽

功過格輯要

一六卷首一卷
清李士達 清康熙五六序刊（觀恒堂）

性天真境

一卷 慈海慈航一卷 御虚階功過格一卷
清黄正元注 黄光鈺等校（慈）（御）清黄正元編 黄光鈺等校 清乾隆刊

大唐 三 〃 三

大唐 六 〃 吳

大唐 一 〃 吾

大和 五 〃 五

大唐 二 〃 亮

大和 五 〃 六

大唐 六 〃 六〇

大唐 三 〃 六二

集部

別集類

杜詩論文 五六卷凡例一卷 唐杜甫撰 清吳見思注 潘眉評 董元愷參 清康熙一一刊(常州、岱淵堂)

杜詩詳註 二五卷首一卷(杜工部年譜在內) 清仇兆鰲 〔清乾隆〕刊

(韓內翰)香奩集 三卷 唐韓偓 〔明嘉靖万曆間〕刊

十行十八字、注雙行、白口、左右雙邊。有界。

東坡全集 序・版心 東坡先生文集七五卷附東坡先生年譜・宋史蘇文忠公伝・東坡墓誌銘・東坡先生紀年録・東坡先生詩集三二卷 宋蘇軾撰(文)明陳仁錫評(年)宋王宗稷編(宋)元脱脱等(墓)宋蘇轍(紀) 宋傅藻編(詩)宋王十朋注明陳仁錫評 明崇禎六序刊

蘇東坡詩集注 三二卷東坡先生年譜一卷目一冊 宋王十朋編 清朱從延校(年)宋王宗稷編 清乾隆四七刊(文蔚堂)

(施註)蘇詩 四二卷首一卷東坡先生年譜一卷目二卷蘇詩統補遺二卷 宋蘇軾撰 施元之注 清邵長蘅等刪補(年)宋王宗稷編(統)清馮景補注 清康熙三八序刊

(重刻黃文節)山谷先生文集 三〇卷 宋黃庭堅撰 明方沆校 黃華陽訂 〔明〕刊(王氏光啓堂、後印、振鄴堂)

「佐伯侯毛利高標字培松藏書画之印」ノ朱大方印アリ。

(批點分類)誠齋先生文贈 前集一二卷後集一二卷 宋楊万里 明万曆元刊(饒錦溪)

△祥雲菴旧蔵▽

大唐 八 〃 八

大唐 八 帙一 〃 七

大唐 一〇 包二 〃 六

大唐 一〇 包二 〃 五

大唐 三 包三 〃 四

半唐 一 〃 三

大唐 二四 包二 〃 二

大唐 三 集 一

陸放翁全集 封面

渭南文集五〇卷劍南詩藁八五卷（卷二七—二九、三四—三七、四一、四六欠）南唐書一八卷南唐書音積・家世旧聞・齋居紀事各一卷・放翁逸藁二卷
宋陸游撰 明毛晉校 〔明末〕刊（汲古閣）

大唐 三 〃 九

〔新刻宋文丞相信国公〕文山先生全集

存一八卷（卷三—二〇）
宋文天祥撰 明文安之訂譌 文震孟搜逸 文定策較正〔明末〕刊（張起鵬）

大唐 八 〃 一〇

帶經堂全集 目首

存六六卷（卷一—三八）漁洋詩二二卷漁洋統詩一六卷／卷六五—九二／八蚕尾文集八卷蚕尾統文二〇卷／
清王士禛撰 程哲編 清乾隆一二序刊

大唐 三 〃 二

〔沈歸愚詩文全集〕

歸愚文鈔一二卷歸愚文統一二卷歸愚詩鈔一四卷黄山遊草・台山遊草・恭頌南巡詩三十章謹序各一卷歸田集版心全二卷說詩碎語二卷浙江通省志圖說一卷
清沈德潛 〔清乾隆〕刊

大唐 三 〃 三

總集類

唐詩選

七卷
旧題明李攀龍編服部（元喬）（南郭）点 文政元刊（江、小林新兵衛）

小和 一 〃 三

宋十五家詩選

清陳訢編 清康熙三二序刊

大唐 八 〃 三

石倉十二代詩選

古一三卷唐詩一〇〇卷宋詩一〇六卷（卷九二又九アリ）元詩五〇卷明詩八六卷明次集一四〇卷
明曹学佺編 明崇禎刊

大唐 一三 〃 一四

完全ナル伝本稀。内閣目ト比スルニ、唐詩選目錄ナキガ如シ。

唐宋文歸 序首

唐文歸一〇卷宋文歸二〇卷
明鍾惺編 楊彝參評 〔明末〕刊（集賢堂）

△周亮工旧蔵△

大唐 一六 〃 一五

佩文齋詠物詩選（鈔録）

全二卷
館機〔柳湾〕編 文化九刊（江、万笈堂英平吉郎等）

△手△

横和 二 〃 三

戯曲小説類

小説

(増補批點図像)燕居筆記

(帯図本)九卷下一三卷
明馮〔夢龍〕編 余公仁批補 明末刊

小唐 一七
包二 〃
〃 二六

出版者名、封面ニヨリ、忻賞齋・集快齋ナドト一定セズ。書陵部所蔵本ト同版。十一行十六字、単辺、有界、白口。

○

警世通言 目首

(帯図本)四〇卷(卷七一欠)
〔明馮夢龍〕編 清初刊

大唐 九
〃 〃
〃 七

図第一葉ニ刻工名ナシ。兼善堂刊本ト異ル。卷二十四ハ「玉堂春落難逢夫」、卷四十八「葉法師符石鎮妖」。十行二十字、単辺、無界、白口。

拍案驚奇

(帯図本)三六卷
明〔凌濛初〕(即空觀主人) 清初刊(東溪)

大唐 三
包二 〃
〃 一八

「尚友堂」ト版心ニ残ルモノアリ。尚友堂刊本ノ覆刻ナラン。図像ノ顔面内閣文庫ヨリ佳。北京大学所蔵本ト同版ナルベシ。各卷目ハ内閣本ト同ジ。十行二十字、単辺、無界、白口。

(二刻)拍案驚奇

(帯図本)三四卷
〔明馮夢龍〕編 清初刊

半唐 三
〃 〃
〃 九

三十四卷本初見。但シ版木ノ寄セ集メナラビニ補刻アリ。即チ、十行二十字白口単辺無界ノ外、九行二十字有界ノトコロアリ。卷二ノ第五・六葉ナド補刻ナルコト一見明ナリ。卷十一第一葉ニハ「尚友堂」ノ原刻者名残ル。各卷目、一部ハ初拍二拍ニ見ユルモノナレド、見エザルモノアリ。待攷。パリ国民図書館所蔵本ト同種力。

(新鐫)小説選言

(帯図本)一八卷
明(青雲主人) 評(超凡居士)校 〔明末〕刊(雄飛館)

小特唐 五
〃 〃
〃 二〇

初見。孫目未載。皆三言二拍ニ出ヅ。八行十六字、白口、単辺、有界。口絵三十六張。

(新刻)幻縁奇遇小説

(帯図本)一二卷
清(撮合生)編 清初刊(愛月軒)

小特唐 八
〃 〃
〃 三

初見。孫目未載。七行十六字、白口、单边、無界。口絵十二葉二十四面。短篇小説集。

連城壁

〔一二集外編六卷〕
〔清李漁〕〔覺世裨官〕〔清康熙〕刊

半唐 八 三

初見。孫目（一〇〇頁）ニアル如ク、往時滿鉄図書館ニ江戸期写本アリシ外、所在知ラレザルモノ。短篇小説集。八行二十字、白口、单边、無界。写刻。

（諧道人批評第二種）快書

〔帶図本〕〔封面・目首・版心・照世盃〕四回
清〔酌元亭主人〕〔清康熙〕刊〔酌元亭〕

半唐 四 三

清刊本初見。明和刊本流布。孫目ニイフ如ク、清刊本ノ存在他ニ知ラレズ。一九二八年海寧陳氏古佚小説叢刊本ハ明和刊本ニ抛リシナリ。八行二十字、白口、单边、無界。玉嬌梨ノ原刊本ト同様ノ康熙頃ノ写刻本。

（新鐫出相批評）僧尼孽海

〔帶図本〕不分卷附輯一卷
旧題明唐寅〔明天啓〕刊

半唐 二 四

江戸末期乃至明治ノ転写本ハ数部見タレド、皆同一源ニ出ツ。明刊本初見。孫目（一〇八頁）亦民国ニ所在ヲ記サズ。八行十八字、白口、单边、無界。口絵十二葉アリシカ。第八・九・十二葉欠。本文乱張。第二十七葉ヲ欠ク。題詞一葉、本文原九十九葉。

（新鐫出像批評）龍陽逸史

〔帶図本〕二〇回
明〔醉竹居士〕明崇禎五序刊

半唐 八 三

初見。孫目未載。書名ノ如キ内容ノ短篇小説集。毎回一故事ヲ演ズ。九行二十字、白口、单边、有界。口絵二十葉。「洪国良刻」トアリ。

（新刻繡像批評）金瓶梅

〔帶図本〕二〇卷二〇〇回（目欠）
清初刊〔覆明〕

大唐 二四 三

十行二十二字、闌上四字、白口、单边、無界。繡像不欠。第四十一回ニハ姓名アレド、第六十回前半葉ニ「啓先」ノ文字ナシ。往年馬廉寄来ノ図ノ覆刻ナルヲ知ル。卷一首序首、天理本ト異版。

（新鐫批評繡像）春燈開奇遇豔史

一二回（図欠）
清〔煙水散人〕撰〔幻庵居士〕評〔清康熙〕刊

長中唐 二 三

初見。孫目未載。八行十八字、白口、单边、無界。桃花影ノ二編ト見返ニアル如ク、同類ノモノニテ、才子佳人小説ノ亜流。首ニ幻庵居士「題春燈鬧序」アリ。

金石緣全伝

二四回
清〔咸豐元〕刊〔文粹堂〕

小唐 八 〃 元

乾隆中ノ作品。嘉慶五年鼎翰樓刊本アリ。本書ハ版式ニヨリテ、咸豐刊本ト定ム。九行十七字、白口、左右雙辺、有界。

（新鐫小説）巫夢縁

一二卷
〔清〕刊〔嘯花軒〕

長中唐 四 〃 元

孫目（二二四頁）ニハ未見本トスレド、中尾松泉堂所藏本中ニモアリ。九行二十一字、白口、单边、無界。

○

（新鐫批評出像通俗奇俠）禪真逸史

八集四〇（三六一四〇・四欠）
〔明方汝浩〕（清溪道人）撰（心心儒侶）評 明末刊（清修）

大唐 七 〃 三〇

孫目著録（一八九頁）。九行二十二字、白口、单边、有界。

叢書部

子部

（新鐫三統玄言）道釈経精解評林

（新鐫三統玄言）道経精解評林八卷（新鐫三統玄言）釈経精解
評林八卷
明焦竑編 陳鼐典校 明万曆三三序刊（光裕堂）（蓮牌木記破）

大唐 三 叢 一

道經忠集

第一冊 卷一 老子道德経
第二・三冊 二一六 莊子南華経

第四冊 卷七 太上老君常說清靜經

文始經

老子陰符經

卷八 亢倉洞靈經

楊子太玄經

太上大通經

太上赤文洞古經

太上玉樞經

洞玄靈寶定觀經

龍虎經

太上消災護命妙經

太上黃庭外景玉經

太上黃庭內景玉經

心印經

積經 恕集

第五一七冊 首卷 訳経便覧

一一三 大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經一〇卷

卷四 般若波羅蜜多心經 金剛般若波羅蜜經

六祖大師法宝壇經

卷五 大方広円覺脩多羅了義經

仏説阿弥陀經

卷六 仏説觀無量經

大乘妙法蓮華經上

卷七 妙法蓮華經下

藥師琉璃光如来本願功德經

卷八 維摩詰所説經

楞伽阿跋多羅宝法經

百川学海

甲乙集全 欠丙集王文正公遺事至癸集存
宋左奎編 明弘治一四序刊

全四帙ノ内、第一帙不見。

百家名書

存一五二種
明胡文煥編 明万曆三一序刊

〔武英殿聚珍版叢書〕

三九種
清乾隆中勅編 清刊（浙江省）

檀几叢書

二集各五〇卷餘集二卷
清王暉・張潮編 清康熙三四序刊

大唐 三 包四 二

大唐 六 包八 三

中唐 二四 包十二 四

大唐 二 五

知不足齋叢書

首帙第一—八集
清鮑廷博編〔清乾隆〕刊

中唐 六

朱子遺書

七種二刻六種
宋朱熹清刊

大唐 三

附

雅

衍

存第九集（鷗鵠部）鳥部四丹惡草一冊魚部一冊
〔毛利高標編〕写

大和 六 外 一

「雅衍」ハ、毛利高標侯ノ編ニ成リ、鳳凰ニ始リ、動植物昆虫ニ関スル六百二十四項目ニツキ、和漢ノ諸書（殆ド漢籍）ヨリノ引用ヲ彙輯セル類書、即チ生物学事典ト云フベク、恐ラクハ完成ニ至ラザル未定稿ノ如シ。侯ノ歿後九代藩主高誠ガ文政年間儒臣中島子玉ニ命ジテ校訂セシメシ浄写本（東京・片岡博士現蔵）ニヨレバ、全二十二卷。

コノ本ハ残卷ナレド、謹直ノ浄書本ニシテ、本文共紙表紙（二八・二×二一・二厘）、仮綴。鳥糸欄ハ单边（一八×二一・七厘）有界。每半葉八行、行十九字。包紙ニ後人ガ「虫箋」ト題セルハ妄カ。

佐伯藩政史料目錄

昭和五十四年三月十五日 印刷
昭和五十四年三月二十日 發行

編集
發行

佐伯市教育委員会
佐伯市中村南町一―一

印刷

佐伯印刷株式会社
佐伯市新屋敷三四三番地
電話代 〇一七〇番